



末梢動脈疾患 ①

足に起こる動脈硬化



おがさわら・だいすけ 1974年生まれ 医学博士。神戸大学医学部医学科卒。2023年2月より伊達赤十字病院循環器科第2循環器科部長として着任。狭心症や心筋梗塞といった循環器救急疾患をはじめ、足梗塞といった病気に代表される下肢の血管病に対して専門的に取り組む。

医療コラムも第3弾となり、今回は「末梢動脈疾患」についてお話しします。

おさらいではありませんせんが、前回は虚血性心疾患について解説しました。心臓を栄養する血管（冠動脈）に動脈硬化が進み、血管が狭くなり血流が悪くなる病気のことをいいます（詳しくは3月15、16日付の室蘭民報のコラムを参照）。



この動脈硬化が足の血管に起こると、末梢動脈疾患となります。動脈硬化が心臓に起こると狭心症などの虚血性心疾患、足に起こると末梢動脈疾患となり、名前こそ違えど病気が起こる機序は同じという事です。

足の血流が悪くなると当然足の先まで届く血液が不足し、血流不足によ



るさまざまな症状が出現します。症状は大きく4段階に分かれ、第1段階では血流不足により足の冷たさ（冷感）を自覚するようになります。

動脈硬化が進みさらに血流が低下すると2段階目で、一定距離を歩くと血流不足でふくらはぎ付近が痛くなり、痛みで休まざるを得なくなる、休むことで症状が改善し歩



き出すものの、再び血流不足で足が痛くなり歩けなくなる、これを繰り返すことを間欠性跛行（かんけつせいはいこう）といいます。



大切なことは、早期に診断し早期に治療を開始することにつきるので、これらの症状が出現した方は、まずはこの病気を疑い、専門医のいる病院を受診することをお勧めします。



（後編は●日付に掲載予定）

そのままで傷は決して治りません。ひどい場合は傷口から感染が広がり、足の一部を切断しなければならなくなるリスクもあります。3、4段階目まで進行すると、その後の生存率が低下することも明らかとなっております、別称として「重症下肢虚血」という呼び名が付いています。

西部支社(伊達)

TEL 0142-23-2103
FAX 0142-23-5848
seibu@muromin.co.jp

中部支社(登別)

TEL 0143-85-4530
FAX 0143-85-4773
chubu@muromin.co.jp

白老・苫小牧支社

TEL 0144-82-2484
FAX 0144-85-2300

札幌支社

TEL 011-241-2753
FAX 011-241-2637

ニュース、生活情報、購読、
広告は上記の各支社へ
お知らせください。